

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500633		
法人名	社会福祉法人 サン・ビジョン		
事業所名	グループホーム グレイスフル八田		
所在地	愛知県春日井市八田町2-27-10		
自己評価作成日	平成29年10月 5日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan1=true&JiyosyoCd=2372500633-004PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日課の中にラジオ体操、ボール体操、室内歩行などの有酸素運動を盛り込み、ご自分のできる範囲での身体能力の低下防止につとめている。個別のアセスメントをより細かい視点においてADL、IADLの把握をし、職員で共有することにより、個性をだしたケアプランに活かしている。日々のつづやきの中から「行きたい場所」「食べたいもの」「やってみたいこと」を拾い上げ、個別の行事として取り入れている。地域の行事にも利用者様と共に参加し、地域住民の一員としての暮らしが継続でき社会参加ができる支援をしている。また、法人GHの共通の取組として「ハピネスチェック」を用い、「認知症があっても、社会の中で自信と幸福を感じられる生活」が支援できるよう努めている。ご家族との関係性も「共に利用者様を支える関係」としてよりよい関係がはぐくめるよう、写真をたくさんつかったホームだより、電話での状況報告、面会の依頼、行事へのお誘いなどで満足度向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を深めるために、今年度から新たな取り組みを開始した。日課となっている散歩時に、利用者が「パトロール」の腕章を付け、近隣住民と挨拶を交わしながら地域の巡回をしている。また、利用者は公園の清掃等の地域行事に積極的に参加し、毎年の地域の納涼祭りにはブースを設けてもらい、パネルを使用してホームを紹介している。地域の人々との交流を深めるために、利用者がゲームの主催者となり、地域住民との関わりを持つことに積極的に取り組んでいる。「八田だより」を隔月で発行しており、写真をふんだんに使って利用者の日常や外出時等の様子を家族に伝えている。協力的な家族が多く、利用者・家族・ホームの良好な関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やスタッフルームに掲示し、申し送り時に唱和をしたり事業計画作成に活かしている。毎月のミーティングでの振り返りを行い、理念を共有しケアの向上に努めている	玄関入り口に理念を掲げ、利用者・家族・来訪者にも周知している。「利用者の自信と幸福が感じられるよう」「持てる能力を發揮できるよう」に支援している。理念や事業計画は職員に周知され、意識統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、町内の清掃やお祭り当番、防災訓練に参加している。近隣住民が花壇のお世話をしてくださったり、外出の際には声をかけて下さる。中学生の職場体験の受け入れも行っている	地域の清掃活動やお祭り等に、利用者が職員と共に積極的に参加している。AEDを設置して地域に広報し、中学生の福祉体験やボランティア等が来訪している。今年度、利用者による「地域パトロール」を始めた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りのブースにはホームの様子のポスターを作り展示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者も参加できる状況での運営推進会議ではご家族、地域包括支援センター職員、管理者、介護職員をメンバーに事故、つぶやき、行事報告や今後の予定などの意見交換を行っている	運営推進会議を年6回、地域包括支援センター・家族・職員のメンバー構成で開催している。利用者のいるリビングで開催し、利用者の普段の生活を見ながら討議している。家族の参加率も高い。	災害発生時には地域との協働が重要であることから、会議メンバーに自治会役員や近隣住民を加えることも検討して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加、介護相談員の受け入れを行い、協力関係を築いている。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加、介護相談員の受け入れにより、ホームの実情を行政は把握している。グループホーム協議会への参加や市の集団指導を通し、良好な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人内、施設内でも身体拘束禁止の勉強会に参加し意識向上を図っている。	管理者・職員共に身体拘束による弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関の施錠はないが、利用者の状態によっては一時的に施錠することもある。スピーチロックに陥ることもあるが、その場で注意して職員の意識向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人、ホーム内での勉強会を行い、意識向上に努めている。管理者は職員とのヒアリングの機会を設け、風通しのよい職場作りを防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の勉強会に参加し、必要があれば制度を活用し支援できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な時間をとり、説明を行い理解納得を図っている。料金形態の変更があった際には説明をおこない、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回の家族会では職員と家族様が気軽に話せる機会となっている。年に二回の満足度アンケートは実施・集計・公表・評価のサイクルを事業計画に落とし込み確実に運営に反映できるようにしている	運営推進会議への家族の出席率は高く、年3回の家族会もある。法人の満足度アンケートの意見・要望は検討され、改善方法を運営推進会議に諮っている。会議に参加していない家族には文書を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月に一度のミーティングの他にも常に職員の意見や要望を聞くよう努めており、管理責任者とも常に意見を反映できるように関係を築いている。	月1回の職員会議がある。職員の満足度アンケートを年3回実施し、必要に応じ面接をしている。職員から「管理者は話し易く、相談できる」との声が聞けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スーパースターシートやチャレンジシートを用い各自が向上心をもって働ける環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートの個々のレベルに合わせ、法人内外の研修を受ける機会の確保に努めている。新人職員に関してはチェック表を用い、不安がないよう人材育成をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	エリアを超えた法人内GHでの会議での情報共有、またGH連絡協議会への参加、研修などで他事業所の取組などを知る機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や趣味など事前調査を行い、ご本人からの要望を伝えやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の面談では家族様が困っていることや不安なこと、要望に耳を傾け、安心してサービスを利用していただけるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の申込みセンターでの面談の他に、直接事業所を訪ねてこられる方や電話での対応を行い、情報共有を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で共に行うことにより、助け合う相互の関係が築いていけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの中での生活状況をお知らせし、できるかぎり行事に参加していただくよう声をかけさせていただいている。誕生会、個別外出の際にはご家族同伴の計画もたて、共に支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきたもの、場所、事柄などをご家族様の協力を得て、継続していただけるよう支援に努めている	利用者の友人の訪問があり、正月や休みに家族と自宅に帰ったり、美容院に出かける利用者もいる。年賀状や手紙等の継続を支援し、本好きな利用者が図書館に通う等、これまでの習慣も大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、お互いに家事の役割分担が自然にできるよう声掛けをしたり、間にはいり話題を提供したりして関係性がはぐくめるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には継続介護記録を作成し、環境変化によって状態が悪化しないように努めている。また必要に応じて面会も行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや一言をつぶやきにて拾い、職員間で共有している。対策が必要なつぶやきには職員会議にて重要性の判断、検討対策を行っている	職員は利用者の「つぶやき」を大切にしており、利用に寄り添って聞く意識を持って支援している。聞き取った「つぶやき」は、職員会議で対応を検討して共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境などをフェイスシートから拾い上げ、穏やかな暮らしが継続できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	検討事項を月一回のカンファレンスとして検討し、状態の改善や変化などを話し合い、柔軟に対応できるよう努めている。またケアプランに反映させ、職員が統一してケアができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員それぞれが担当をもち、計画作成担当者や管理者とともにアセスメント、モニタリングを行い、家族様と担当者会議をひらいている	居室担当者と計画作成担当者が6ヶ月毎にモニタリングを行い、利用者同席の下でサービス担当者会議を開催している。利用者の発する「つぶやき」を縦覧し、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	法人のシステムであるポイントケア、ケアアシストを使い個別記録に残している。職員は全員がケアプランの内容を把握しており、介護計画の見直しに活かすことができるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の事業所と連携し、福祉用具の相談を行ったり、ボランティアコーディネーターによる慰問も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型として近隣の喫茶店でのモーニングや飲食店への外出、食材の買い出し、近隣パトロールを兼ねた散歩など生活を楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月に2回の往診、精神科医による月一回の往診がある。他科受診は原則家族対応だが、それぞれの事情も加味し柔軟に対応している	かかりつけ医は利用者・家族の選択としているが、現在は全利用者が月2回協力医、月1回の精神科医の往診を受けている。他科受診は家族対応が基本であり、必要に応じて情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や看護師に随時連絡し、指示を仰いでいる。薬剤管理を行い、検査結果はご家族に報告し改めて受診が必要な際にはご家族の協力も得て、適切な受診や看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に情報を提供し、安心して治療していただけるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針で重度化した場合や医療的ケアが必要となった場合には退居もしくは住み替えをしていただくことを入居の際に説明し同意を得ている。退居の際には、利用者様にとって最も適した住み替えを提案できるよう努めている	利用契約時に重度化した場合や医療的ケアが必要になった場合に、退居となる旨、家族に説明して同意を得ている。多くの利用者は法人内特養への入所申し込みを併願している。退居の際には、利用者にとって最善の支援になるよう、家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人統一の救急マニュアルは事務所に掲示しており、急変や事故発生時にあわてることのないよう職員は常に意識している。AEDや救急の訓練は消防署に依頼し定期的に行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一度の避難訓練には近隣住民にも声をかけている。地域の防災訓練にも参加し、災害時に協力体制がとれるよう関係性を築いている	年2回の総合避難訓練(夜間想定含む)を実施し、通報・初期消火・避難訓練をしている。毎月の避難訓練には地域にポスティングを行っている。AEDも設置されており、地域にも広報している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、常に敬意をもって支援にあたっている。入浴や排泄の誘導の際にも自尊心をきずつけないような配慮をしている	利用者の人格を尊重して支援にあたっている。職員がフロア内で利用者のことを話す際は、誰のことか特定できないよう配慮している。入浴や排泄の介助時には、プライバシーや羞恥心への配慮もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの際には「よろしいですか」などの一言を付け加え、ご本人は思いや希望を表したり、自己決定ができるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	さまざまなレクリエーションを用意し、選んでいただけるような働きかけを行っている。天気の良い日には交代で散歩にでかけたり、それぞれの希望にそって一日が過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は毎朝ご自分で今日着る服を選ばれ、出かける際には「よそゆき」に着替えるなどおしゃれを楽しまれている。職員は季節に応じた洋服の声掛けや、季節の変わり目買い物にでかけるなどおしゃれができる環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のレクリエーションの中には献立作りもあり、利用者の食べたいものや旬のものなどを取り入れている。食材の購入の買い出しにもでかけ、調理のプロセスに参加していただいている	利用者主体でメニューを決め、食材購入には利用者も一緒に出掛け、調理の一連の動きに参加している。職員も一緒に食事をすることで、食事時間が楽しみの場となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせ、食べる量や栄養バランス、水分量が確保できるよう声かけ促しを行っている。無理に食べさせることは避け、その人の全量を見極め食べることの喜びを感じていただけるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後にうがいのうながしを行い、共同の洗面所にて全員が行えるよう見守りしている。夜間は義歯をお預かりし洗浄液につけるなど一人ひとりの口腔状態に応じたケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助が必要な利用者様には、自尊心に配慮した声掛けを行い誘導している。日中、夜間とパットを使い分けたり、居室にポータブルをおくなど、できる限りご自分で排泄できる環境を整えている。	トイレでの排泄を基本にした支援をしている。多くの利用者は自立排泄が可能であり、見守り介助であるが、夜間は安全のためにポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立を意識し、水分の摂取をしていただけるよう支援している。日常の中で極力体が動かせるような声掛け、毎日の乳酸菌飲料やヨーグルトの提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を可能としているが、一人ひとりのタイミングや希望に合わせて行っている。	毎日の入浴準備があり、利用者の意向を踏まえた入浴を実施している。浴槽が大きく、仲良しの利用者同士が入浴を楽しむこともある。ゆったりと入浴できるよう、職員は焦らせることがないように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日を通してご自分の居室でのんびりテレビを見る方やラウンジに残って利用者同士のおしゃべりやレクリエーションを楽しまれる方など、利用者は休みたいときに休める環境の下で暮らしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	法人の服薬マニュアルの徹底、また部会やホームでの勉強会など常に意識をし誤薬のないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じて家事が行えるよう支援している。職員は一人ひとりの生活歴や趣味嗜好、楽しみごとを把握し、その人に合わせた支援ができるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は個別、全体も含め年に6回の計画を行うよう事業計画におとしこんでいる。また食材の買い出しから近所への散歩まで外出が日常的になるよう支援している	日常的に、散歩や買い物、地域のパトロールに出掛けている。年6回の居室担当者と馴染みの場所に出かける個別外出や全員で行く喫茶店、外出ドライブは利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いをお預かりしホームで管理している。モーニングや外食、外出の際の買い物など利用者はそれぞれの財布を持ってでかけ、可能の方はご自分で支払いができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは全員の利用者がご家族や大切な人に出せるように支援している。ホームの電話を使い、遠く離れたご家族と電話でお話したり、ご家族様の声を聞いて安心できるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天井が高く広々としている。壁面には利用者様の作品や外出レクでかけた写真などで飾っている。中庭はご家族様が持ってきてくださった花などがうえてあり、季節感を味わうことができよう工夫している	リビングの一角にある台所からは死角がなく、会話や見守りがしやすい間取りである。台所からの匂いや音が感じられるリビングは、家庭的な雰囲気となっている。ウッドデッキには季節の野菜や花が植えられ、季節感が味わえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部のソファは利用者様のくつろげる場所となっており、読書をしたり、テレビをみたりと思いつきに過ごせる環境になるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具がもちこまれ、使い慣れたもの、なじみのもの、ご本人のアイデンティティを示すものとして大切にしている	仏壇や筆筒等、利用者の馴染みの物が持ち込まれている。家族写真が置かれ、それぞれの利用者が落ち着いて居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現存能力の維持のためできること、わかることには極力参加していただき、そばで職員が見守るという形が自然にできている		